

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	22-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Medication prescribing for alcohol use disorders during alcohol-related encounters in a Colorado regional healthcare system コロラド州の地域医療システムにおけるアルコールに関連した受診期間中のアルコール使用障害への薬物処方		
執筆者		
Chockalingam L, Burnham EL, Jolley SE.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2022 Jun;46(6):1094-1102. doi: 10.1111/acer.14837.		
キーワード		PMID
依存症医療薬、健康格差、医療サービス、ナルトレキソン		35723682
要 旨		
<p>目的: アルコール使用障害への薬物投与 (MAUD) は、大量飲酒と再発を減少させる。しかしアルコール使用障害 (AUD) のわずか 1.6%しか MAUD を受けておらず、急性期医療の MAUD 処方是不十分である。外来、救急診療(ED)や入院での薬物使用治療環境と比較して、より少ないであろうと仮定した急性期病院入院中の医療環境での MAUD 処方に関連する患者および受診レベルの要因を同定した。</p> <p>方法: 2016年1月1日から2019年12月31日の間に University of Colorado Health (UCHealth) システムにおいて、国際疾病分類第 10 版 (ICD-10) のアルコール関連診断を受けた成人患者の電子健康記録のデータを評価した。オピオイド使用障害の ICD-10 診断コードを有する患者や最初のアルコール関連エピソードの前に MAUD を受けていた患者のデータは除外した。主要アウトカムは、MAUD (ナルトレキソン、アカンプロサート、および/またはジスルフィラム) の処方とした。UCHealth での MAUD 処方の独立した予測因子を特定するために二変量および多変量解析を実行した。</p> <p>結果: UCHealth でのアルコール関連受診患者 136,205 名から一意の対象 48,421 名を同定した。受診は ED(42%)、入院急性期治療(17%)、入院薬物使用治療(18%)、外来初診治療(12%)で行われていた。すべての環境で MAUD を受けた患者は 2,270 名(5%)のみであった。女性と依存症医療の診察が、MAUD 処方の正の予測因子であった。これに対して、入院薬物使用治療以外での受診、ヒスパニック系、黒人または非白人は、MAUD 処方の負の予測因子であった。入院薬物使用治療と比較して、AUD のために入院急性期治療を受けた患者では、MAUD を受けるオッズ比が 93%減少していた。</p> <p>結論: 本医療システムにおける AUD 関連の ED および急性期病院入院受診は一般的であった。それにも関わらず MAUD 処方、特に入院患者においては非常に少なかった。急性期医療におけるアルコール関連の診断を受けた患者への MAUD 導入についてはさらなる評価が必要である。</p>		